

アーチルニュース

ちえなっぷ

第26号

《特集》

「今後の発達障害児者支援の方向性とアーチルの役割」

アーチルの今後の支援の方向性・役割の概要について紹介します。

《かけはし》

成人施設中堅者研修会

成人通所施設の中堅者職員を対象とした研修の様子を紹介します。

※ちえなっぷは「CHIN UP! (前を向いて)」の意味です。

安心して暮らせる地域を

誰もが地域で安心して暮らすために、アーチルではこれまで本人・家族の思いを大切にしながら、地域で支えあえるよう皆様方と一緒に様々な取組を行ってきました。今回の特集で紹介している「支援の方向性とアーチルの役割」を委員の方々とまとめる際にも、その取り組みや課題を再確認したところです。

これまで課題のひとつとして、重い障害があっても地域で暮らせるよう住まう場を広げる方法を探ってきましたが、このたび、ようやく医療的なケアが必要な方でも入居できるグループホームの整備に向け、一步を踏み出しました。モデルとしてはありますが、市独自で運営費の一部を補助することで、まずは1か所でのスタートです。これは関係する皆様の並々ならぬ努力の賜物で、初めの一步ではありますが、大きな一步です。関係する方々の協力を得ながら、次につながるよう進めていきたいと考えています。

今回、実現が難しいと思われることでも、皆様の願いが一つの形になりました。課題はまだありますが、各々が当事者意識を持ち、力を合わせ一つ一つ解決に向け取り組むことが大切です。皆様自身が、地域やまちをつくる大切な一人だから。

南部アーチル所長 佐々木和典

あーちる きゃらりい

作品名「ゆるキャラ神経衰弱」「缶積みパズル」

(ほっとすぺーす歩° 歩° 利用者さん作)



平成26年11月15日(土)、仙台市障害者総合支援センター(ウェルポート)で「いず☆ちゅう健幸祭」が開催されました。ほっとすぺーす歩° 歩°さんが参加して下さり、「お楽しみコーナー」で、利用者さんが作ってくれた『ゆるキャラ神経衰弱』と『缶積みパズル』などを使って子どもたちと遊びました。

特集 今後の発達障害児者支援の方向性とアーチルの役割 ～地域で誰もが安心して暮らすために～

1 「支援の方向性とアーチルの役割」完成まで

アーチルは平成14年4月の開設以降、発達障害児者の「早期出会い」と「生涯ケア」の実現に取り組んできましたが、開設から10年余りの間に、発達障害児者やその家族を取り巻く環境は大きく変化してきました。それに伴い、アーチルの相談件数が増加し、内容が多様化、複雑化してきています。

例えば、知的障害を伴わないケース、医学的に明確に診断分類できにくいケース、二次障害を起こして地域生活が困難になっているケースなど、変化する市民のニーズに応じて、「地域の中での育ちと暮らしを支える」相談支援や支援システム整備等を行っていきには、仙台市の発達障害児者支援の現状を分析して課題整理を行うとともに、アーチルの果たす役割についても再考する必要があります。そのうえで、様々な機関との連携・協働がますます重要となります。

そこで、アーチルでは、平成24年度から、アーチル連絡協議会の中で、委員の皆様と、「これまでの10年、これからの10年」をテーマに話し合い、「今後の発達障害児者支援の方向性とアーチルの役割～地域で誰もが安心して暮らすために～」（以下、「支援の方向性とアーチルの役割」といいます）の作成を行ってきました。

「支援の方向性と役割」は、これまでの障害児者支援の基本的な理念や視点を継承しながら、連携・協働を基調とした今後の発達障害児者支援のあり方や方向性について検討し、また、アーチルの担う役割について整理して、今後の仙台市における発達障害児者支援を進める上での、いわゆる「羅針盤」として活用するものです。

2 発達障害児者支援の方向性

発達障害児者支援にあたっては、本人や家族だけに「生活のしにくさ」の改善に向けた努力

を求めるのではなく、理解者の拡大や支援ネットワークの形成等、本人や家族が生活しやすくなるような環境作りが重要です。アーチルは、以下の5つの観点からの支援を行い、「本人の発達特性が認められ、本人らしく生きていくことのできる社会の実現」を目指します。

①本人・支援者・市民の協働による支援

生活全般において、本人、家族、支援者、そして市民それぞれが当事者意識を持ちながら協働していくことが重要です。

②本人の生きづらさ、家族の育てにくさに着目した支援

本人の生きづらさ（発達支援）、家族の育てにくさ（子育て支援）に着目して支援を展開し、「障害そのものを無くすこと」ではなく、早い段階から「生きづらさ」の改善を一緒に考えていくことを目指した支援を行っていくことが重要です。

③予防的な視点からの支援

二次障害等の問題が深刻化することを防ぐためにも、より早期の段階から本人の一番身近な存在である家族が本人の気持ちに寄り添いながら、本人の抱える発達特性についての理解を深めることが大切です。そして、家族以外の支援者や共に地域で暮らしている様々な人たちにも発達障害について理解を広げていくことも非常に重要です。

④本人主体の支援

「本人が望む生き方を自ら決定し、必要に応じて周りからの手助けも受けながら、自己実現していく」ことを支えていくことが大切です。

⑤一貫した支援

本人の「生きづらさ」は周囲の環境によって変化します。環境改善に向けて、生涯にわたった一貫した支援体制の整備が必要です。

3 アーチルに求められる役割

また、発達障害児者支援にあたり、アーチルには次の2つの役割が求められています。

①生涯にわたる一貫した相談支援機能

アーチルにおける相談支援は、本人や家族と直接面接しながら、“生涯にわたり”、“本人の状態を多角的に評価し”、“今後の支援の方向性や具体的な対応方法等を確認”しながら支援を行う、総合的な相談支援です。いわゆるアーチルが担う「直接支援」にあたります。

②システム全体のコーディネート機能

「システム全体のコーディネート機能」とは、本人が日々通う活動の場、関係機関・関係部局等が、本人や家族、市民と連携・協働しながら課題解決に向けた取り組みを進めるために必要なコーディネートを行う機能です。いわゆるアーチルが担う「間接支援」にあたります。



4 支援を推進していくために

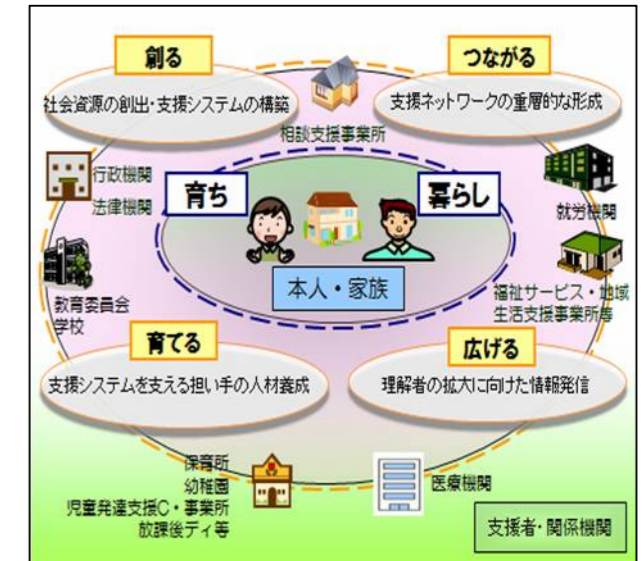
多様化、複雑化している課題の解決に向けて、本人や家族、支援者、そして市民が互いにつながりながら、協働を推進していくことが必要です。連携・協働を進めるために必要な4つのキーワードを挙げます。

①つながる—本人・家族を中心とした支援ネットワークの重層的な形成

②育てる—支援システム全体を効果的に稼働させていくための人材養成

③広げる—理解者の拡大に向け、様々な層へのニーズに応じた情報の発信

④創る—必要な社会資源の創出や支援システムの構築



5 これからのアーチルの発達障害児者支援

「支援の方向性とアーチルの役割」では、連携・協働を基調としての今後の発達障害児者支援の方向性やアーチルの役割をまとめました。本書を「羅針盤」としながら、具体的な取り組みについて、計画、実施、評価を絶えず行い、また、時代の変化にともなう市民のニーズの変化に応じて、「羅針盤」自体も柔軟に見直しを行っていくことが必要です。

今回は概要の紹介となりましたが、「今後の発達障害児者支援の方向性とアーチルの役割～地域で誰もが安心して暮らすために～」の全編はアーチルのホームページで公開しておりますので、是非ご覧ください。また、アーチルの窓口でも配布しておりますので、アーチルにお越しの際には、ぜひ職員にお声かけください。



「アーチル」とは「アーチ (arch: 橋)」と「パル (pal: 仲間)」とをかけたもので、センターが障害者と市民の「架け橋」になるようにとの願いを込め、市民公募によってつけていただいた愛称です。

このコーナー「かけはし」は、読者の皆さんとアーチルが双方向で情報交換できるよう、皆さんや職員からのメッセージなどを掲載していきたいと思います。



成人施設中堅者研修会

～利用者一人ひとりが生き生きと活動する施設を目指して～

成人施設中堅者研修会とは

成人施設中堅者研修会は、平成 23 年度から始まり、今年度で 4 回目となります。市内の生活介護事業所、就労移行支援事業所、就労継続支援事業所等の施設の中堅職員＝リーダー的な役割を果たしている方を対象として、グループワークが中心の全 4 回の研修会と、お互いの施設の見学を行っています。研修を通して日々の課題を整理し、支援の方策を探るとともに、施設全体として課題をどう解決していけばよいのか考えていきます。

また、スーパーバイザーとして、小坂徹氏（東北福祉大学特任教授・アーチル囑託）にもご参加いただき、ご助言をいただいています。

他の施設では、どんな工夫をしているのだろうか？
施設見学で見てみよう。

全 4 回の研修会と施設見学で、ネットワークが広がって、相談できる仲間が増えていった。



PDS シートを書くことで、自分や施設の課題を整理できた。

グループワークでは、自分では気付かない視点から指摘してもらえた。

「PDS シート」の活用と施設見学会

研修会では、「PDS シート」を利用して課題を整理しています。「PDS」とは、「Plan＝計画、Do＝実行、See＝評価」の意味で、施設の課題を整理しながら改善計画を作成、計画を実行、実行した計画を評価し、次の計画に活かす、というサイクルを示しています。研修会では、PDS シートでお互いの課題を共有し、感想を言い合ったり、どのような支援が望ましいのかを一緒に考えたりしています。見えていなかった自分の施設の課題が見えたり、課題を解決するヒントを得たりする大きなチャンスです。

また、平成 25 年度からは、「施設見学」を始めました。普段はなかなか見る機会がない、他の施設の支援の様子を実際に見ることで、自分の施設の長所や短所が見えてきたり、自分の施設にはなかった工夫を知ることが出来たりします。受講者の皆さんから、「他の施設を見るのが出来て良かった」という声をたくさんいただきました。

特別講座を実施しました！



特別講座の様子

平成 26 年 9 月 21 日 (日)、「重症心身障害への適切な支援のために～基礎的な理解から摂食嚥下の支援まで～」をテーマとして、ウエルポート研修室にて、アーチル特別講座を実施しました。

講師には、大手町かわた歯科・川田真純医師と吉田由里子医師をお招きし、講義「明日につながる摂食嚥下機能障害への視点と援助」と口腔ケア等の実技指導をしていただきました。

この広報誌についての
お問い合わせは下記まで

(発行元)

仙台市北部発達相談支援センター
〒981-3133
仙台市泉区泉中央2丁目24-1

TEL:022-375-0110 FAX:022-375-0142
e-mail:tuk005410@city.sendai.jp
ホームページは↓

アーチル で 検索